「協働のガイドライン」(改定素案)に対する第5回委員会での意見と市の考え方

項目	主なご意見等	市の考え方
(1ページ) タイトル	サブタイトルを設定した意図はどういったものか。	新しい総合計画における茅ヶ崎の目指す将来の都市像「笑顔と活力にあふれ みんなで未来を創るまち茅ヶ崎」の中から、協働や市民活動の要素がある「みんなで」を引用したものです。
(4ページ) 第1 協働に関する基本的な考え方 5. 協働によって市民活動団体等にもたらされる効果	結果としてではあるが、協働には経験値や新しいネットワークの構築など、コスト面以外のメリットもある。	ガイドラインに追記します。 また、市民活動団体等へのメリットの一つとして周知等に活用します。
(4ページ) 第1 協働に関する基本的な考え方 6. 協働の実施形態	<p>協働事業が具体的な成果を伴う活動(公共サービス)であるとすると、共催や実行委員会などを位置づけるのには違和感がある。</p> <p>市民活動げんき基金補助事業の位置づけと、協働のガイドラインの全体像の整理をもう少し今後していかなければいけないのではないか。</p> <p>委託や指定管理の場合、共通の目的に向かって一緒に行動するという感覚になりにくいのではないか。</p>	<p>ガイドラインは協働の考え方を示すものとして、表現を修正します。</p> <p>また、「協働の実施形態」については引き続き検討します。なお、これまでは協働事業の明確な定義は定まっていませんでしたが、協働を進める具体的な仕組づくりと合せて検討したいと考えています。併せて、げんき基金補助事業と協働の関係についても検討して行きます。</p>

<p>(6 ページ) 第1 協働に関する基本的な考え方考え方 7. 協働の実績</p>	<p>協働の実績について、各課の職員はそれぞれの事業が協働のどの実施形態に該当するかを意識しながら業務に当たっているという考え方でよいか。</p>	<p>実績については、ガイドラインを示した上で、毎年各課に照会しているものです。</p> <p>また、これまでの総合計画では、政策共通認識のひとつに協働が位置づけられており、事業を計画する段階でと協働という視点があるかどうかをチェックしていました。</p> <p>協働や協働の実施形態については、ガイドラインを活用して、引き続き周知したいと考えています。</p>
<p>ガイドライン改定後の活用について</p>	<p>協働の目的の一つが「市民活動団体が公的なサービスを自立的に継続的に担えるようになる」のであれば、そのための仕掛けづくり（ステップや条件づくりなど）が大事なのではないか。</p> <p>ガイドライン改訂の新しい取り組みの方向性やサポートの体制はどのように考えているのか。</p>	<p>協働を進める具体的な仕組みは引き続き検討して行きたいと考えています。</p> <p>第4回市民活動推進委員会でご説明した「情報発信」「交流の場づくり」「コーディネート」などをキーワードに仕組みを検討したいと考えています。</p>
<p>ガイドライン改定後の活用について</p>	<p>実際にはガイドラインをどういうふうに活用していくかというところが重要ある。協働を進めていく中では相互理解が重要であるが、行政サイドの協働に対する認識の弱さなどが課題であると感じる。また、実際に事業化する段階で、対等に役割を分担して進めていく事も難しい。</p> <p>入庁してすぐの方たちに協働の話をして、行政での経験の少なさから仕事に紐付けにくいのではないか。庁内の方に情報提供していくタイミングというのもすごく大事ではないか。</p> <p>ガイドラインは市民へどのように公表されるのか。</p>	<p>職員研修などで活用していきます。なお、研修にあたっては、職歴などを考慮して内容を検討していきます。</p> <p>なお、これまでは、協働の概要を新採用職員研修で、協働推進事業を監督職（課長補佐及び担当主査）の職員を対象に実施していました。</p> <p>ガイドラインそのものを公表します。また、市民向けのリーフレットなどの作成も必要になると考えています。</p>